

三方五湖学習

三方小学校 文部科学大臣賞受賞

令和元年11月25日（月）、三方小学校が、第54回全国野生生物保護実績発表大会（主催：環境省など）において、“文部科学大臣賞”を受賞されました。同大会では、全国各地から推薦され選ばれた10小学校がそれぞれ地元の自然環境を守る活動を発表し、表彰を受けました。

三方小学校は、10年近く取り組む「ゆりかご水田」を発表し、受賞されたものです。ゆりかご水田では、鳥浜漁業協同組合の方々、地元の農家、福井県立大学や福井県里山里海湖研究所、若狭町役場の方々と一緒に、無農薬での米

づくりを行いながら、田んぼでコイ、フナの稚魚を育て、さらに、三方湖に放流するという取組です。地域特有の遺伝子を持つとされるフナを地元の方々の協力を得ながら継続的に取り組んでいることが評価されたとのことです。

三方小学校の皆さま、関係する皆さま、本当におめでとうございます！



引用：三方小学校HP／学校だより12月号

三方五湖 ニュースレター



No. 20
令和2年1月1日発行



シジミ漁体験

自然再生関連会議等開催情報

- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・令和元年11月26日…部会会議
- ◆外来生物等対策部会
 - ・令和元年12月9日…部会会議
- ◆環境に優しい農法部会
 - ・令和元年12月10日…部会会議
- ◆環境教育部会
 - ・令和元年12月6日…部会会議
- ◆シジミのなぎさ再生部会
 - ・令和元年12月23日…関係者打合

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

第2期自然再生事業実施計画策定に向けて

「三方五湖自然再生全体構想」に基づき策定されている「三方五湖自然再生事業実施計画」の第2期自然再生事業実施計画の策定が始まりました。第1期計画策定から5年以上経過し、一定の成果があらわれる一方で、新たな課題も明らかになってきました。今後、部会や全体会を通じて、令和2年度中に第2期計画を固める予定です。



部会長・事務局合同会議

問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

三方五湖のなかまたち

マハゼ（ハゼ科）

- ・河口～下流の汽水域の砂泥の中に生息。
- ・体長13～20cm
- ・春先に、オスがトンネルのような穴をつくり、その中でメスが産卵し、オスが卵を守る。
- ・誰でも簡単に釣れることで人気がある。天ぷらにしても煮つけにしても美味。



このニュースレターは「令和元年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

目次

シジミ漁体験・ヨシ植栽による湖岸再生	1
環境に優しい農法部会認証制度の策定 市民参加型モニタリング	2
三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、 自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち	3

シジミ漁体験

令和元年8月24日(土)に、久々子湖畔において久々子湖の伝統的シジミ漁体験学習「久々子湖のシジミは、すごいらしい!みんなで確かめてみよう!」(主催:三方五湖世界農業遺産推進協議会)が開催され、美浜町内外の親子連れ21名が参加しました。

久々子湖の浜辺で、地元の漁師さんからシジミ漁の歴史やシジミとシジミのすみかとしての湖の環境保全のお話をうかがった後、湖に入り、シジミ漁の漁具を使って、シジミ漁を体験しました。

はじめは、恐る恐る湖に入り、湖底に隠れているシジミを探していた子どもたちも、やがては、服のまま全身で湖につかり、シジミ探しを楽しんでいました。

参加者からは、「またシジミとりをしたい。」「楽しかった!」の声が集まり、日本農業遺産・三方五湖の一つ、久々子湖でのシジミ採り体験を通じ、親子で楽しみながら、水辺の環境保全や汽水湖の生きもの等についての理解を深めている様子でした。※この日、採ったシジミは持ち帰らずに、現地に再放流しました。

“シヨレン”を使って、大きく育ったシジミだけを湖から掘り上げます(小さなシジミはシヨレンの網目から抜け落ちる仕組み)



久々子湖の漁師さんによるシジミのお話し



バケツを持って、湖の中の宝(シジミ)探し



久々子湖に生息する生きものを観察

久々子湖 ヨシ植栽による湖岸の再生

シジミのなぎさ再生として浅場造成に取り組む久々子湖では、平成30年度末より、さらなる自然再生の機能向上を目指しています。平成31年3月、南西郷漁業協同組合、福井県山里海湖研究所(通称、里研)、美浜町住民環境課が連携し、久々子湖の浅場造成地にヨシ移植を試みました。ヨシの移植には、流入河川の河岸に生えていたヨシの地下茎が用いられました。移植後は里研の宮本研究員によってモニタリングされ、植した地下茎の90%が活着し、秋には穂が形成されるほどに成長していることが確認されました。

また、6月には環境教育部会が主催する三方五湖子どもラムサールクラブの子どもたちによる底生動物のモニタリングも行われました。この調査では、ヨシを移植した湖岸の砂地を採取し、ふるいで砂の中の生物を確認。1~2cmほどのヤマトシジミの稚貝が確認できたほか、ゴカイの仲間などの種類や数が記録されました。参加した子どもたちや南西郷漁協の皆さまは、移植したヨシが立派なヨシ原に育ち、かつてのようなシジミがたくさん住む水辺が形成されることを期待していました。

※この試験は、科研費、総合地球環境学プロジェクト研究費が活用されました。



2019年3月
ヨシの地下茎を
植栽



2019年6月
ヨシが活着し順
調に生育して
様子を確認

環境に優しい農法部会認証制度の策定

環境に優しい農法部会では、部会会議や勉強会を重ね、「環境に優しい農法認証制度(環境に優しい農法部会認証)」を策定しました。

「環境に優しい農法認証制度」では、濁水防止や生物・生態系への配慮に取り組んでいること等を基準とし、若狭町内の6団体を認定しています。

今後は、誰もが取り組みやすい制度への改良や、水稻以外の農作物を対象とした制度にすることを検討し、環境に優しい農法の取組の輪が三方五湖周辺で広がるように取組を進める予定です。



上:田んぼの生きもの調査



右:冬水田んぼ(写真:岩本昭夫氏)

◆生きものや自然環境に配慮する取組の例

- ・代かき時に発生する濁り水を田んぼから流出させない
- ・中干しの時期を延期している
- ・田んぼで、コイやフナの稚魚を育てている
- ・冬水田んぼをしている
- ・田んぼの生きもの調査をしている
- ・無農薬・無肥料の自然農法を行っている



環境に優しい農法認証を受けたお米用の米袋と認証シール



環境に優しい農法認証の紹介パンフレット

市民参加型モニタリング フナ・コイ育成田での捕獲大作戦!!

令和元年9月17日、菅湖畔のフナ・コイ育成田にて市民参加型モニタリングが実施されました。

菅湖畔では、海山漁業協同組合により三方五湖湖畔で採ったフナ・コイの卵を水張り休耕田に入れて地元産稚魚が育成されています。毎年9月に、関係機関が協力して稚魚を計数・計測モニタリングし、漁協が設定する増殖目標量との評価を行なっています。

一方で、この作業には、たくさんの労力も必要です。そこで今年度は、例年参加する関係機関に、梅の里小6年生、三方小5年生、環境保全団体もモニタリ

ングに参加し、休耕田で育苗されたフナ・コイの計数・計測を行いました。子どもたちは、おもに休耕田に残った稚魚の救出作業をしました。皆で力をあわせて、取り逃がしが無いよう、タモ網を使って丁寧に救出しました。計測が完了したら、皆で放流。小さな稚魚が、大きく育つことを願って湖に帰しました。



福井県水産課の皆さまによる稚魚の計数作業。稚魚の重さを測り、放流数を算出



みんなで力を合わせ“追い込み”ながらフナ・コイを捕まえたり、一匹一匹を丁寧に捕まえて、漁協さんの放流のお手伝い



「大きくなってね～」と声をかけてフナ・コイの稚魚を湖に放流